

「林原文庫」

2013 年 10 月に「岡山理科大学および（株）林原の間で「林原自然科学博物館（以下、『林原博物館』）研究部の岡山理科大学への承継に関する覚書」が締結されました。当該覚書では、林原博物館が実施していたモンゴル恐竜関係研究事業や、所有していた恐竜化石のレプリカ標本類、図書資料、研究関連備品類などを岡山理科大学へ移管することに合意しました。これに基づき、2014 年 6 月以降、モンゴル恐竜標本レプリカや、4,000 冊を超える図書資料が岡山理科大学へ移管されました。図書資料には、古生物学（恐竜関連を含む）、地質学、解剖学、生物学に関わる各種専門書や専門雑誌、図鑑類、博物館特別展パンフレット、各種辞書類、ロシア語関連図書、などが含まれます。この図書・雑誌に「林原文庫」と名付け 1 カ所に集めて配架しています。



『恐竜化石の研究』と聞くと、皆さんどのような印象をもちますか？化石を発掘に行く、骨を調べる、種類を決める、などでしょうか。『恐竜学』という学問は、現在のところ存在しません。恐竜を扱う分野は『古脊椎動物学』とよばれ、『古生物学』の一分野です。『古生物学』は『地質学』と密接な関係にあるため、古脊椎動物化石の研究をしている研究者の多くは、大学の地質学関連研究室に在籍されています。また皆さんがよく想像する、骨同士の比較研究では、『古脊椎動物学』と『比較解剖学』を用いるため、より医学的な研究になります。

最近では、生物学的・医学的アプローチから、恐竜の実像に迫ろうという研究が数多くみられます。例えば、『発生学』の分野では、鳥類のタマゴに注目して、孵化する前の胚の成長を観察することで、獣脚類（肉食恐竜の仲間）の成長様式を考察してきました。また、『脳科学』の分野では、恐竜の脳が入っていた頭蓋骨の部位（Brain Case）を CT で撮影し、脳の形状を復元することで、嗅覚や視覚といった感覚器官の発達を考察していきます。このほか、地質学的な分野から、当時の総合的な生態系や古環境を復元し、その中で恐竜がどのように暮らしていたのかを研究することもあります。このように、恐竜の研究とは、それぞれの専門的な知識を用いて、恐竜化石を研究する総体、といえます。したがって、恐竜を研究はじめると、多様な専門分野の図書資料が必要になります。

また、近年のグローバル化は、恐竜研究にも大きな影響を与えています。このため、恐竜の専門書籍の多くは英語です（最近、国内の恐竜研究者が増えてきたため、専門書や訳本も登場していますが、全体からみるとまだまだ少ないのが現状です）。

解剖学に慣れない学生が、文章だけで、化石の世界を理解することは困難です。そこで書籍と同じ部位のレプリカ標本を見ながら読み進めることで、より分かりやすく勉強してもらいます。今回、図書の寄贈と同時に、多数の恐竜化石のレプリカ標本が林原博物館より大学へ移管されました。岡山理科大学の学生は、レプリカ標本を直接観察し、実際の形状と書籍の記載を見比べながら、解剖学的な理解を深めることができます。書籍+ 標本による二重の学習は、岡山理科大学ならではの化石学習になるでしょう。

また、林原博物館が行っていたモンゴルの恐竜研究も岡山理科大学へ移管されています。モンゴル国のゴビ砂漠は、恐竜化石の産出量世界第 2 位を誇り、特に鳥類と関係する恐竜類の化石がたくさん見つかっています。また、大陸内陸部に位置しているため、世界でも珍しいほど保存状態のよい化石がみつかります。今後、岡山理科大学でも、モンゴル恐竜化石に関する様々な研究をすすめていく予定ですが、そのためにも、モンゴルの恐竜化石を含む脊椎動物化石や、化石を産出する地層に関する下調べが必要となります。

今回、恐竜研究に関わる様々な図書資料やモンゴル恐竜標本レプリカが移管されたことにより、岡山理科大学の恐竜研究も一層進んでいくことでしょう。